第１章　インバウンドの現状と対応

１．訪日外国人旅行市場の現状

(1) 政府のビジット・ジャパン事業と訪日外国人数の推移

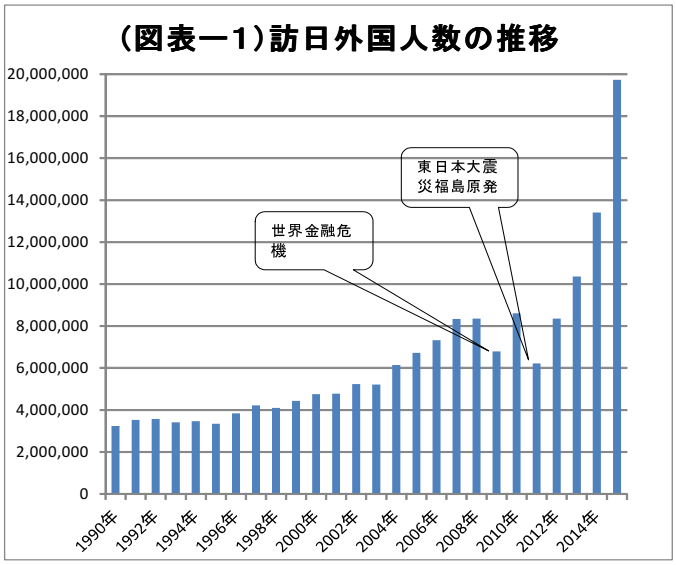
①訪日旅行促進事業（ビジット・ジャパン事業）の概要

国土交通省が主管するビジット・ジャパン事業は、アジア、北米、欧州を中心に、重要 20 市場を定め、在外公館や官民、地方自治体や観光協会と連携して、従来の観光業界の枠を超えた海外ネットワーク、ブランド力、キャラクターやノウハウなどを活用した訪日プロモーションを展開し、訪日旅行需要を喚起して訪日外国人旅行者の誘客促進を図る事業である。

日本政府観光局（JNTO）によると、2014 年（平成 26 年）に於ける訪日外国人旅行者の消費総額は、2 兆 305 億円（前年比 43.3%増）となり、旅行収支という側面からも黒字化が期待され、インバウンド需要が大きな経済効果を上げていることがわかる。

②過去 10 年間の訪日外国人数の推移

（図表－１）の通り、訪日外国人数は 2009 年（平成 21 年）の世界金融危機と鳥インフルエンザの発生、2011 年（平成 23 年）の東日本大震災と福島原発事故の影響により、一時的に急激な低下があったものの近年概ね増加傾向にある。



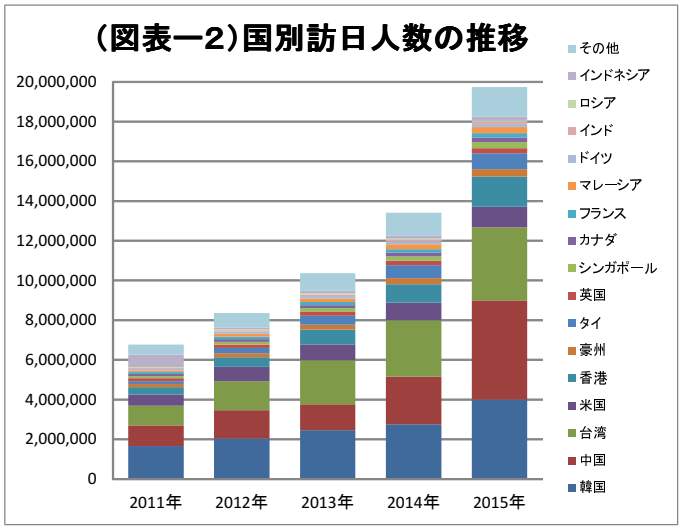
出典：日本政府観光局の訪日外客数シェアより

特に 2015 年（平成 27 年）の訪日外国人数は前年比 47.1%増の 1,973 万 7 千人となり、統計を取り始めた 1964 年以降最大の伸び率を示すと共に政府が目標としていた 2016 年（平成 28 年）までに 1,600 万人の目標を大きくクリアーした。

増加の主な要因は、クルーズ船の寄港増加、航空路線の拡大、燃油サーチャージの値下がりによる航空運賃の低下これまでの継続的な訪日プロモーションによる訪日旅行需要の拡大、円安による割安感の定着、ビザの大幅緩和消費税の免税制度の拡充などの施策が後押ししている。

特に中国からの訪日客数の増加が目覚ましいが、2016 年（平成 28 年）に入り「中国経済の減速」「原油価格の低迷」「中国以外の新興国の経済不安」「ドル相場の動向」などから、世界経済全体に不安定な兆しが見えるので今後も積極的な施策や訪日プロモーション活動が求められている。

(2) 訪日外国人数の国別シェア



出典：日本政府観光局の訪日外客数シェアより

（図表－２）の通り、重要 20 市場で見ると、ロシアを除く 19 市場が年間で過去最高を記録し、中でも中国が前年比 107.3%増の 499 万人に達して初めて最大市場となった。

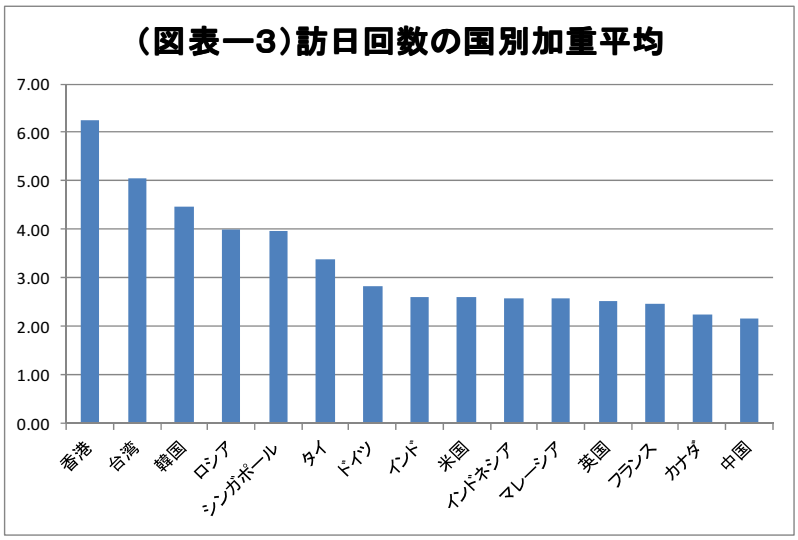
また米国が欧米市場で初めて 100 万人を超えたほか、東南アジア６市場（タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム）も、合計で 200 万人を超える規模となった。特に近年、アジアからの訪日外国人数の増加が顕著な傾向となって現れている。

(3) 訪日外国人旅行市場の特性

①訪日回数

2015 年（平成 27 年）の訪日人数から見ると（図表－2）の通り韓国、中国、台湾、米国、香港の順になっているが、訪日回数という側面から見ると違った様相を呈してくる。

全体では 37.6%が初来日だが、国別に訪日回数の加重平均を求めると（図表－3）のように香港、台湾、韓国、ロシアの順になり、特に香港、台湾、韓国のリピーター率が高いことがわかる。



2014年の訪日外国人消費動向調査より試算

香港は、航空路線の拡充や円安傾向の持続により訪日旅行の割安感が浸透していることと地方の魅力を訴求する訪日プロモーションが奏功し、地方への誘客が進んでいる。

台湾も同様で、ＬＣＣを中心とした航空路線の拡充と、季節需要に合わせたチャーター便の運航、九州・沖縄へのクルーズ船寄港の増加などが旺盛な需要の背景にある。このような動きも、過去からの経済的なつながりや歴史的な関係が影響しているものと考えられる。

②訪日動機

（図表－４）に示す通り、訪日動機の第１位は、観光・レジャーで（インドは商談・その他ビジネスが１位）、第２位が商談・その他のビジネス、第３位が親族・知人の訪問や社内会議・研修となっている。

観光・レジャーが訪日目的の第１位とはいえ、国別に見ると若干の違いが見られる。例えば観光・レジャーの構成比を見ると香港、台湾、韓国、シンガポール、タイ、マレーシア中国では 50％以上となっているものの、北米、欧州、ロシア、インド、インドネシアでは 50％を切って、相対的に低い構成比となっている。特に、インドやインドネシアでは、商談や研修の比率が高くなっている。

これらのことから訪日動機にも、地理的問題や経済関係などが反映されているものと推察される。

（図表－4）2014年の国別訪日動機

単位：%

訪日動機/国名	香港	台湾	韓国	ロシア	ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ	タイ	ドイツ	インド	米国	ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ	ﾏﾚｰｼｱ	英国	フランス	カナダ	中国
観光・レジャー	88.5	81.3	62.3	45.9	58.9	67.9	26.2	7.6	31.9	29.2	55.1	36.5	49.4	45.7	55.1
親族・知人訪問	1.5	3.0	6.9	6.0	3.3	4.8	9.3	6.8	15.4	6.7	3.6	12.8	11.1	16.5	8.5
ハネムーン	0.5	0.7	0.2	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.2	0.3	0.2	0.4	2.0	0.4	0.3
学校関連の旅行	0.2	0.4	1.3	0.0	0.5	1.0	0.4	0.2	1.8	2.0	0.2	0.4	0.4	1.3	0.5
イベント	0.6	0.2	0.2	1.7	0.2	0.1	1.0	0.0	0.8	0.8	0.6	1.4	1.6	1.3	0.8
留学	0.2	1.0	1.2	6.1	1.4	1.8	1.9	1.1	2.0	3.1	1.9	1.2	2.6	2.1	3.3
治療・検診	0.0	0.4	0.3	1.9	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.4	0.1	0.0	0.2	0.1	0.2
インセンティブツアー	0.4	0.2	0.1	0.0	0.3	1.6	0.1	0.3	0.1	2.4	1.0	0.0	0.2	0.0	0.3
展示会・見本市	0.7	1.6	2.8	2.0	2.1	2.4	1.7	0.8	0.6	1.6	1.2	0.8	0.6	1.5	1.8
国際会議	0.3	1.3	2.6	3.7	1.7	2.5	6.8	6.0	3.2	5.4	3.6	2.7	3.3	4.3	1.2
社内会議（自社施設以外で開催されたもの）	2.9	3.3	2.3	5.9	12.2	5.3	17.7	27.1	15.2	13.8	10.7	12.5	11.2	8.9	7.2
研修	0.4	0.9	2.4	2.5	2.0	4.8	4.8	10.8	4.0	16.7	7.2	2.5	2.6	1.4	5.9
商談等その他ビジネス	3.2	4.6	15.5	20.9	15.4	6.1	25.8	33.1	17.3	10.8	11.7	24.9	10.1	9.6	12.9
その他	0.6	1.1	1.9	3.4	1.9	1.7	4.1	6.2	7.4	6.7	2.9	3.8	4.8	7.0	2.1

（注）網掛け部は、第1位、第2位、第3位

（図表－5）訪日前に最も期待していたこと

期待していた内容	単一選択		複数選択	
	構成比	順位	構成比	順位
日本食を食べること	30.0	①	79.4	①
日本の酒を飲むこと（日本酒・焼酎など）	1.5		22.8	⑧
旅館に宿泊	1.8		30.9	⑥
温泉入浴	8.2	④	40.3	⑤
自然・景勝地観光	15.7	②	55.9	③
繁華街の街歩き	3.4	⑦	45.4	④
ショッピング	15.1	③	64.8	②
美術館・博物館	1.4		15.0	
ゴルフ	0.2		1.3	
テーマパーク	7.1	⑤	20.1	⑨
スキー・スノーボード	2.2	⑨	6.0	
舞台鑑賞（歌舞伎・演劇・音楽など）	0.9		5.6	
スポーツ観戦（相撲・サッカーなど）	0.6		3.5	
自然体験ツアー・農漁村体験	0.7		9.1	
四季の体感（花見・紅葉・雪など）	2.8	⑧	15.6	⑩
映画・アニメ縁の地を訪問	0.7		6.0	
日本の歴史・伝統文化体験	4.0	⑥	23.9	⑦
日本の現代文化体験（ﾌｧｯｼｮﾝ・ｱﾆﾒなど）	1.9	⑩	15.0	
治療・健診	0.0		1.3	
上記には当てはまるものがない	1.8		2.7	
回答者数および選択率延べ合計	100.0		464.6	

出典：2014年の訪日外国人消費動向調査より

一方、観光・レジャーを目的とした訪日客に来日の前に最も期待していたことを調査した結果が、（図表－５）で、単一選択による回答も複数選択による回答も、日本食を食べること、ショッピング、自然・景勝地観光、温泉入浴、テーマパークといったことに対する期待の高いことがわかる。

現時点は、メジャーで人気のある観光スポットを回るゴールデンルート（例えば成田空港⇒東京観光⇒箱根⇒富士山⇒名古屋⇒関西の観光⇒関西国際空港）が盛んだが、これらの回答を考えると地方を含めインバウンド需要の見込める地域が、まだまだ多く存在していると言えよう。

２．東京都在住外国人の現状

2015 年（平成 27 年）10 月現在の東京都に在住する外国人居住者数は（図表－6）の通りで、東京都全体では、中国人が 181 千人、韓国・朝鮮人が 93 千人、フィリピン人が 29 千人、ベトナム人が 20 千人、米国人が 16 千人、その他の地域を合せて全体では 440 千人の外国人が在住している。

郡部と島部は、在住者が少ないので、区部、市部だけをグラフ化すると以下の通りで、構成比で見ても区部の中国人が若干多いくらいで、傾向的にはそれほど変わらない。

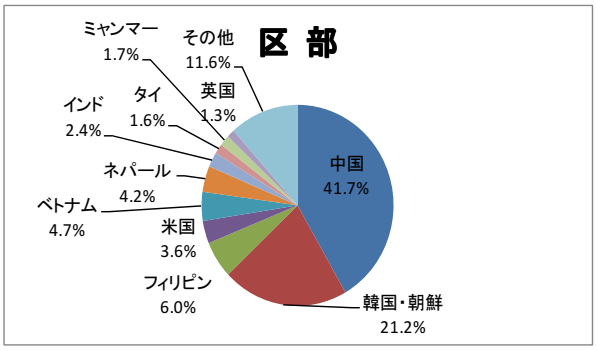
インバウンド需要を取り込むための、様々な施策や訪日プロモーションは欠かせないが、既に現在在住している外国人の需要を喚起することも重要である。

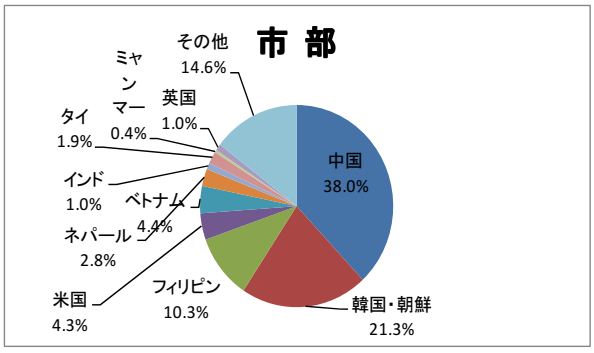
その意味で、東京都内には既に多くの外国人が居住していることを再認識すべきである。

（図表－6）東京に在住している外国人の状況（平成27年10月現在の住民基本台帳の人口）

単位：人

国・地域	中国	韓国・朝鮮	フィリピン	米国	ベトナム	ネパール	インド	タイ	ミャンマー	英国	その他	総数
区　部	154,740	78,769	22,110	13,547	17,293	15,544	8,758	5,989	6,387	4,874	43,175	371,186
市　部	25,958	14,528	7,057	2,904	2,976	1,888	709	1,331	281	708	9,961	68,301
郡　部	129	90	211	43	85	1	3	21	1	1	164	749
島　部	14	82	66	21	7	－	－	7	－	2	61	260
総　数	180,841	93,469	29,444	16,515	20,361	17,433	9,470	7,348	6,669	5,585	53,361	440,496





３．国や自治体の対応

(1) 地方創生に係る政府の観光関係施策【2015 年（平成 27 年）1 月、観光庁資料より】

①政府施策の全体概要

前述のとおり、政府はアジア、北米、欧州を中心に対外的な訪日プロモーションを行うビジット・ジャパン事業を積極展開する一方で、受け入れ側の国内については以下のごとく多様な観光振興策を地方創生に係る観光関係施策として実施してきている。

ⅰ）広域観光周遊ルート形成促進

ⅱ）地域資源を活用した観光地魅力創造事業

ⅲ）「ふるさと休日」の設定など観光振興・地域振興への取り組み

ⅳ）観光産業における人材の育成

ⅴ）旅行券や観光振興のための対内直接投資に対する交付金

ⅵ）免税店の拡大に向けた制度整備

ⅶ）無料公衆無線ＬＡＮ環境の整備促進、など

ここでは、本報告書に関連の深いと思われるⅰ）とⅱ）について概要を示す。

②広域観光周遊ルート形成促進事業

国土交通省の観光庁が推進する事業で、複数の都道府県をまたがって、テーマ性・ストーリー性をもった一連の魅力ある観光地を、交通アクセスも含めてネットワーク化し、外国人旅行者の滞在日数（平均６日~７日）に見合った、訪日を強く動機づける「広域観光周遊ルート」（骨太な「観光動線」）の形成を促進し、海外に積極的に発信しようとする事業である。

（図表―７）

これは、現状東京周辺やいわゆるゴールデンルート（左図参照）に訪日外国人が集中しており、外国人観光客が不便を感じずに地方を周遊・滞在できるようにすることが目的である。訪日外国人で東京に宿泊する人の延べ宿泊数は、998 万人【2013 年（平成 25 年）】であるが、その大多数が都心部に宿泊していると推測されることからも、多摩地域を考える場合に忘れてはならないポイントである。

③地域資源を活用した観光地魅力創造事業

地域の観光資源を世界に通用するレベルまで磨き上げるために、歴史的景観、美しい自然、海洋資源、豊かな農村漁村、魅力ある食文化の観光資源を活かした地域づくりを行うための観光庁の施策である。以下のスローガンのもと、体制づくり、受け入れ環境整備、二次交通の充実等を一体推進する。

様々な地域づくりの取組と連携し、地域の観光資源を世界に通用するレベルまで磨き上げるとともに、外国人の受入環境整備を実施。

(2) オリンピック・パラリンピックを目指した政府の観光関連政策

【2015 年（平成 27 年）3 月、内閣府経済社会総合研究所資料より】

2020 年（平成 32 年）東京大会に向けて、政府は首相を議長に全省庁を含めた推進体制をとっており、また組織委員会を中心に、オールジャパンでその成功を目指している。経済効果は（イ）訪日外国人の増加と（ロ）建設需要である。次頁（図表８）のとおり、訪日外国人数とその消費額は、2020 年（平成 32 年）に向けて顕著に増加すると予想されている。その中で、2020 年（平成 32 年）に向けた地域活性化（外国人誘致）に繋がる具体的な政策は以下の 3 点である。

①文化プログラム

オリンピック憲章にもとづき、組織委員会は複数の文化イベントを計画しなければならない。東京大会においても文化プログラムを全国展開すべく、検討が行われている。

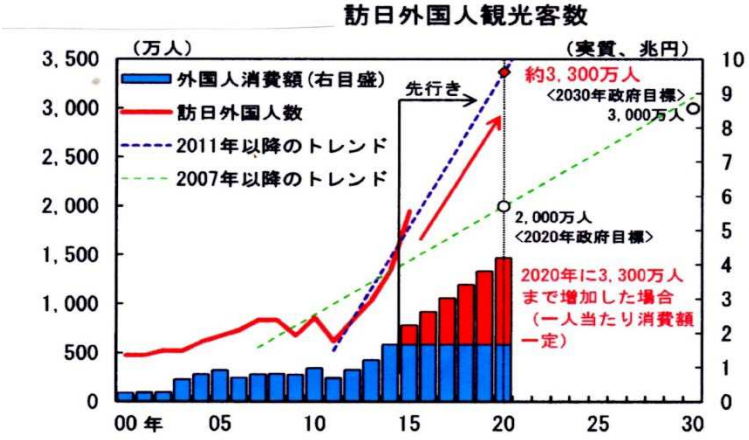
②事前合宿誘致

各国・各地域の選手団が実施する大会期間前のトレーニング施設となる国内の事前キャンプ候補地をリストアップし、誘致する。

③ホストシティ・タウン構想

全国の自治体と参加国・地域の人的・経済的・文化的な相互交流を図ることで、地域の活性化や観光振興などを政府全体で推進する取り組みである。

（図表―８）



（出所：観光庁）

(3) 東京都の観光関係施策【2013 年（平成 25 年）5 月東京都公表資料より】

東京都は、2013 年（平成 25 年）度から 2017 年（平成 29 年）度までの５年間の戦略として、「東京都観光産業振興プラン～世界のブランド都市・東京」に基づき、年間 1,000 万人の外国人旅行者の誘致を目指し、以下の重点的な取り組みを行っている。

ⅰ）外国人旅行者誘致の新たな展開

ⅱ）ＭＩＣＥ誘致の推進（Ｍ：会議・研修、Ｉ：招待旅行、Ｃ：国際会議・学術会議、Ｅ：展示会）

ⅲ）魅力を高める観光資源の開発

ⅳ）受入環境の充実

ⅴ）人材の育成・活用

なお、都の観光公式サイト「ＧＯ　ＴＯＫＹＯ」の日本語版では、多摩全体で日原鍾乳洞と奥多摩温泉もえぎの湯など 10 ケ所の紹介にとどまるが､英語版ではこの 2 ケ所を含めて青梅・奥多摩地区で 34 ケ所が紹介されており、外国人観光客誘致への都の努力がうかがえる。但し、紹介写真のないところもあり、更なる改善が要望されるところである。

４．外国人観光客の動向と政府・自治体の施策から見た外国人誘致の主要課題

(1) アジア系外国人誘致の更なる具体策が必要なこと

上述のごとく、昨年の訪日外国人は中国で 499 万人、東南アジア（タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム）で 200 万人超であり、特に近年、アジアからの訪日外国人客数が顕著に増加している。また、香港、台湾、韓国はリピーター率が高いことも報告されている。これらのアジア系外国人を多摩地域観光に誘致し、あるいは単なる通過客でなく、地元での消費をしてもらうためには、多摩地域の各エリアが一体となった具体的誘致活動が望ましい。

(2) 回教徒対応の一層の一般化

東京都は特定非営利活動法人日本ハラール協会の協力を得て、ムスリムを多く抱える東南アジア等からの訪日外国人客数の急激な増加に備え、『「ムスリム旅行者」おもてなしハンドブック』を作成・配布し、受け入れ側のムスリムに関する知識や理解向上と、ア）食事、イ）礼拝、ウ）習慣・マナーの主要３点の対応につき取り組み方を示している。

今後のムスリム来訪者の増加に備え、あるいはムスリムの多摩地域への誘致のため、食におけるハラールだけでなく、礼拝や習慣・マナーにつき啓蒙活動で一般普及を図ると共に、日本のサービスやおもてなしを知ってもらう具体策が必要である。

(3) 在日外国人への奥多摩観光誘致政策の推進

東京に居住する外国人だけをとっても、上述のごとく 44 万人となっており、この居住外国人は、ア）それ自体多摩地域観光への誘致対象である上、イ）海外居住の親族・友人の観光誘致の有力な情報ソースになりうる、そしてウ）観光ボランティアや各国語での案内パンフレット作成などの人的リソースともなりうる。これらの可能性を踏まえた在日外国人の観光誘致および活用促進が望まれる。

第２章　多摩成長の源泉・多摩川流域の地域資源

東日本大震災と福島原発事故直後の混乱もおさまったことから訪日外客数も増加傾向にある。多摩地域においても同様に、観光客数が増加してきている。

徳川家康が江戸（東京）に首都を構えてより、日本の政治・経済の中心として東京都心部の発展には目を見張るものがある。一方、多摩地域も、豊かな水源である多摩川の流域に広大な台地が拡がっていることから、古来より村落が築かれ都心部とは異なる歴史を積み重ねてきた。

多摩川流域の歴史や地域資源の概要を踏まえて、外国人旅行客にとって魅力的であろう当地における観光資源を整理した。

１．多摩川の位置付け

(1) 地理的位置

多摩川の源流である一之瀬川は山梨県の笠取山の南斜面を源泉としている。笠取山の北斜面は荒川に、西斜面は富士川へと繋がっている。一之瀬川は柳沢川と合流して丹波川と名前を変えて、西多摩の奥多摩湖に注いでいる。奥多摩湖の出口となる小河内ダムから下流が多摩川である。多摩川は、北多摩・南多摩の分岐線となり、23 区では神奈川県との県境として東京湾に注ぎ込んでいる。

小河内ダム
出所：東京都水道局HP

多摩川は総長 138 ㎞、流域面積 1,240 ㎢に及ぶ一級河川で、荒川・利根川とともに東京都民の生活を支えてきた。また、羽村を取水堰とする玉川上水により生活用水を供給してきた。

北多摩・南多摩・西多摩に区分けされることから三多摩とも呼ばれる多摩地域は、政治的側面と都民の水源管理を目的に、一部を除き 1893 年（明治 26 年）に神奈川県より東京都に編入された。当時は、人口 24 万人程度の農村地域であった。

多摩川流域（赤線が多摩川本流）　出所：ｶｼﾐｰﾙ3Dを用いたﾗﾝﾄﾞｻｯﾄ衛星画像

(2) 多摩川周辺の歴史

①多摩川の果たしてきた役割

多摩川は、上流では御岳渓流に代表される急流で緑あふれる豊かな自然の山あいを流れているが、青梅周辺では川幅も広くなり道路と接近し市街地を形成している。また、多摩地域は青梅を起点に東南に向かって５本の台地が伸びており、古代より多摩川沿いに村落が築かれ、その遺跡も残っている。

上流では林業が中心で養蚕も行われていた。青梅は、八王子とともに織物業が盛んで、木材輸送の拠点として「市」も行われていた。中流では水田耕作による農業が盛んで、府中は古代武蔵国の政治的中心として国府が置かれ、宿場と馬市で栄えた。

青梅市付近
出所:国土交通省HP

また、多摩川は、鎌倉幕府にとって防衛上の拠点とも考えられ、周辺では中世を起源とする城跡も散見される。江戸時代には橋を設けず、渡船場を利用して人改めが行われていた。

多摩川は川舟による輸送が盛んで、年貢米や木材などを運んでいた。

また、都市化の進展とともに道路の建設も盛んになり、多摩川での砂利採取は江戸時代から始まり、東京オリンピック終了後の 1965 年(昭和 40 年)に全面禁止となったが、多摩川の自浄作用の破壊に繋がった。

②産業の変遷

山麓一帯の農家の副業であった織物業は、明治後期から大正初期にかけて動力織機が導入され、それにあわせて工場の組織化や市街地化が進んだ。八王子・青梅・村山を拠点とする織物業は、それぞれが競合を避けた独自化で織物地域を編成し、多摩地域の主要産業として栄えた。

戦前期においては、1930 年（昭和５年）の横河電機製作所（現 横河電機）を最初に、戦争疎開により多摩の各地に軍需工場が展開された。特に中島飛行機に代表される航空機産業が多数を占めた。また、豊富な水と空気の清浄な日野には精密工場が進出し、日野重工業（現 日野自動車）も含め日野五社と呼ばれた。

大戦後の 1950 年（昭和 25 年）の朝鮮戦争の特需時には、再度織物業が活発化した。青梅は綿小幅夜具地で全国の７~80％を占めるほどであった。しかし、その後の洋風化に対応できず、労働力不足等の生産基盤の弱体化もあり、多摩地域の織物業は衰退していった。

その後、多摩地域では自動車・電機・食品等の大企業の大規模工場が建設され、研究開発機関も設置された。研究開発機関の設置は、特殊な部品加工・試作加工を周辺に依存するため、多摩地域の製造業にとって、織物業・軍需工業で培われた技術力を発揮する場となった。また、新技術や試作開発は大企業が中止・撤退する事例が多く、起業家精神の旺盛な技術者が独立開業する契機に繋がった。

また、1962 年（昭和 37 年）に市街地開発地域となったことから大規模な工業団地も

開発された。大企業の誘致目的で始まった開発は、その後地域の都市化・住宅地化に伴う公害問題の解消や工場の集約化目的の中小企業を対象とする開発に拡大した。

しかし、地方への工場集約や海外展開を受け、多摩地域から大企業の大規模工場の撤退が続いており、地域製造業に打撃を与えている。

③住宅地化

関東大震災後緑豊かな自然を背景とした文化的な都市造成を求め多摩地域での住宅地化が始まった。その初期の大正時代は富裕層による別荘開発であったが、その後一般向け住宅地開発に拡大した。

多摩地域での住宅地化は、軍需工場展開による増加、大会社の大規模工場建設と工業団地の造成による増加、都心勤務会社員向けのベッドタウン化による増加と変遷を経て進んできた。

羽村の堰付近（筆者撮影）

急増する人口の受け皿として、無秩序な住宅地化に対する対策として都営住宅の団地建設が始まり、1971 年（昭和 46 年）には多摩ニュータウン等の大規模開発が行われた。

また、急増する地域住民の日帰りレジャーとして、丘陵地においてはハイキングコース・遊園地等も開発された。

(3) 多摩地域の今後の活性化に向けて

大企業の大規模工場の撤退による地域製造業の衰退、大規模団地等における人口高齢化と施設の老朽化の進展等多摩地域の対応すべき課題は多数ある。

地域住民にとっての新たな産業の育成と地域の魅力に根差したまちづくりを推進するためには、バランスの取れた地域開発と整備が今まで以上に重要になってくる。

地域独自の歴史資源と地域の特徴である水と緑の自然資源を保全し活用する観光資源として見直し、新たな産業として育成していくことが求められている。

２．訪日外国人観光客にとっての多摩川流域の魅力

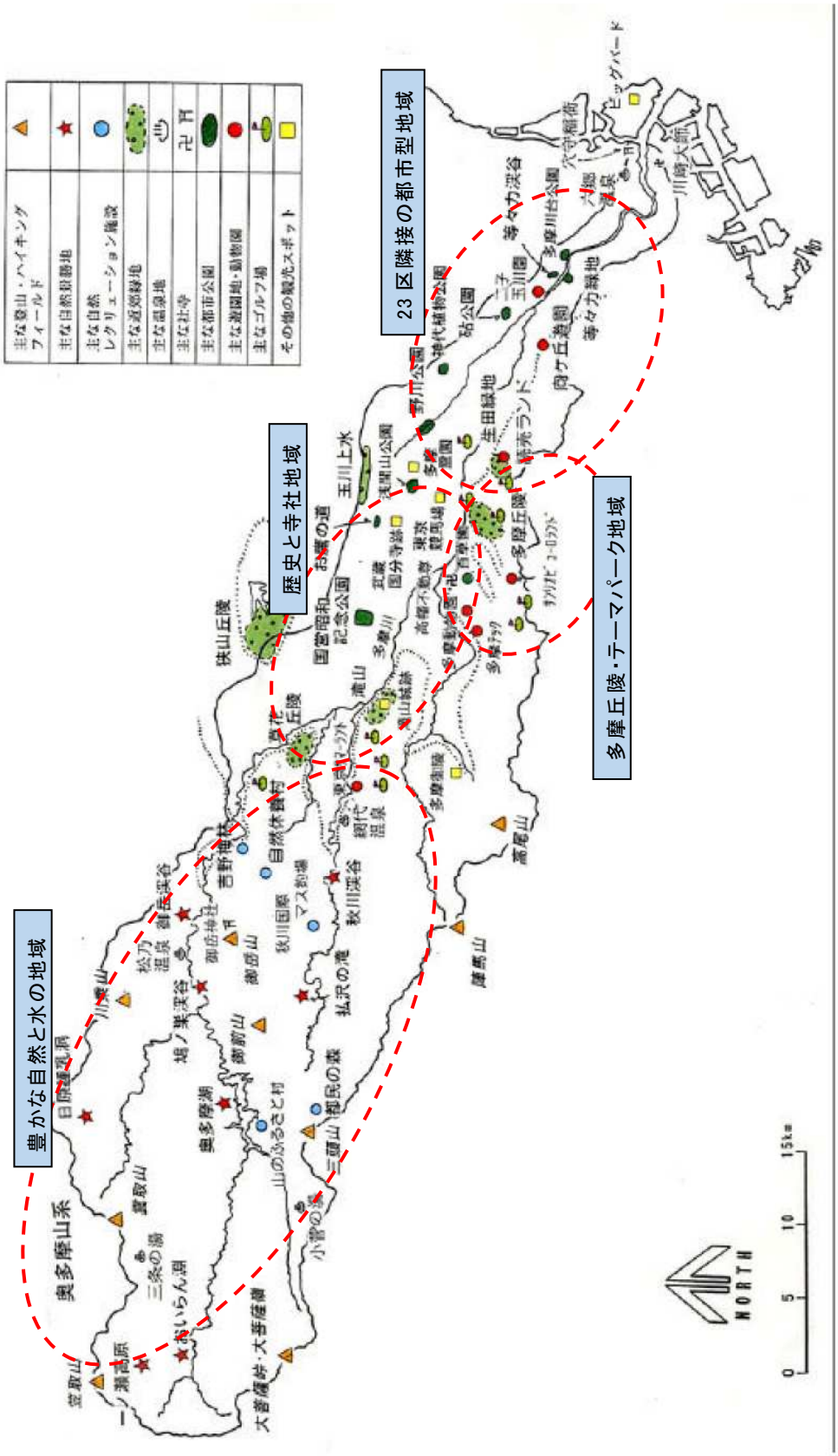
(1) 多摩川流域のエリア分けと特性

多摩川の上流は御岳渓流に代表されるような、豊かな自然があふれる地域である。中流は多摩丘陵と武蔵野台地の間を流れてゆく。多摩川の北の武蔵野台地は、甲州街道が通る交通の要衝である。律令制時代に国府（府中市）と国分寺が置かれた地でもあり、歴史と寺社の地域である。

これに対して多摩川の南の丘陵地帯は、相模原台地にまで延びる、総面積 300ｋ㎡におよぶ広大な多摩丘陵である。多摩丘陵は標高の最も高いところでも 200m程度で、多くの小川に浸食された複雑な地形で、谷戸と呼ばれる細長い谷が形成されており、植物が豊富な里山となっている。

多摩川の下流は河川州域の宅地化が進み、都市型の地域となっている。

【参考】多摩川流域の主な観光資源とエリア分け
（出所：国土交通省「河川整備基本方針　多摩川水系」に加筆）
※一部に廃止施設等も含む



出典：都民レクリエーション資源地図（東京都）、
東京都市情報地図（国際地学協会）ほかより

各エリアに特色があり変化に富んだ多摩川流域は、都心を訪れる外国人旅行者にとって多いに魅力のある地域と言える。

次項では、各エリアの特色に従って、多摩川流域をあえて４つに区分し外国人旅行者にとって魅力がある思われる観光資源を抽出した。

【多摩川流域の４つのエリア区分】
○東京 23 区に隣接する都市型地域
○多摩川南の多摩丘陵・テーマパーク地域
○多摩川北岸の歴史と寺社の地域
○上流の豊かな自然と水の地域

(2) 各エリアの魅力

①23 区（世田谷区）に隣接する都市型地域

23 区に隣接する都市型の地域としては狛江市と調布市の２つがある。

このうち狛江市は、日本で３番目に小さな市である。狛江市には狛江古墳群があるが、その多くは個人の所有地内にあるため、観光地として整備されていない。市が行うイベントとして毎年７月に開催される「狛江古代カップ多摩川いかだレース」がある。

いかだレース
出所：狛江市役所 HP

また、深大寺と神代植物公園もこの都市型地域の代表的な名所のひとつである。

深大寺は天平５年（733 年）開基の天台宗別格本山で、本尊の阿弥陀如来を祀った本堂の他に、比叡山中興の祖と言われる元三大師を祀った元三大師堂、薬師如来を祀った開山堂など多くの堂宇がある。京王線調布駅下車、バスで 10 分程度、徒歩数分。

隣接する神代植物公園では、バラ園が有名である。その他梅園、桜園、椿園などの施設が広大な敷地に配置されている。深大寺門前には鬼太郎茶屋があり、子供たちの人気の的となっている。

深大寺本堂 出所：深大寺HP

神代植物公園（筆者撮影）

鬼太郎茶屋（筆者撮影）

都心から近いにもかかわらず、手軽に多摩川の自然と日本の歴史・文化に触れることのできるエリアである。

②丘陵・テーマパーク地域

多摩丘陵にはいくつかのテーマパークなどがある。

稲城市にある「よみうりランド」は、新宿から京王線で 25 分の「京王よみうりランド」駅で下車すると目の前である。

最高時速 110km のジェットコースター「バンディド」や日本初のループコースタであるＭＯＭＯｎＧＡ、垂直落下マシン「クレージーヒューストン」、バンジージャンプなどがある。また、晴れの日には新宿副都心まで見える大観覧車やゴーカート、お化け屋敷、流れるプールなど、多くの施設がある。

よみうりランド（筆者撮影）

多摩市のある多摩丘陵は植物の豊富な丘陵地帯であるため、旧石器時代から人が住み着き、多くの遺跡や古墳がある。多摩ニュータウンの造成に伴ってこれらが発掘され、保存されている。写真は東京都埋蔵文化センターの復元住居である。
（多摩市ホームページより）

復元住居

多摩センター地区は 2003 年（平成 15 年）に「ハローキティにあえる街」と制定され、ハローキティが多摩センターの親善大使に制定されている。また毎週土曜 15 時頃より、サンリオキャラクターがパルテノン大通り周辺を散歩するイベントが開催されている。

京王線多摩センター駅の近くにはサンリオのテーマパーク「サンリオピューロランド」がある。

多摩川の南側になるが、ＪＲ三鷹駅下車徒歩 15 分のところには、スタジオジブリの「三鷹の森ジブリ美術館」がある。高幡不動からモノレールに５分ほど乗ると世界初のライオンバスや昆虫生態園などで知られる多摩動物公園がある。

サンリオピューロランド
（筆者撮影）

海外でも人気の高いキャラクターやアニメといった今や日本を代表する文化に直に触れ、体験できるエリアと言える。

③歴史・寺社の地域

多摩川の北側には甲州街道に沿って多くの街が発展してきた。なかでも府中市は律令時代に武蔵国の国府が置かれていた地である。京王線府中駅から徒歩で５分のところには、大國魂神社がある。大國魂神社は 111 年（景行天皇 41 年）５月５日に大神の神託によって造られたとされている。出雲の大国主命を大國魂大神（おおくにたまのおおかみ）として祀ったものである。

縁結び、厄除け厄払いの神として知られる。

大國魂神社
出所：大國魂神社 HP

国分寺市には、奈良時代に開基された武蔵国分寺（醫王山西勝院）がある。741 年（天平 13 年）聖武天皇・光明皇后の命により全国 60 箇所に建立された護国鎮守の国分寺の一つである。1333 年（元弘３年）に鎌倉幕府が滅びた元弘の乱の折に消失し、その後再建された。旧国分寺の寺蹟は現在の伽藍の南方にあり、国指定史跡に指定されている。その一部は市立史跡公園として一般公開されている。

旧国分寺寺蹟
出所：国分寺市 HP

調布市国領町にある国領神社はご神体を千年藤としており、藤の花の名所として知られる。創建年月は不明であるが、鎌倉時代には多摩川畔にあったものを、1640 年ごろに甲州街道沿いに遷座したと伝えられる。

藤の花の時期には藤棚が見事である。

国領神社の千年藤
出典国領神社 HP

安藤広重
「井の頭の池弁財天の社雪の景」
出所：井の頭弁財天HP

三鷹市吉祥寺には井の頭弁財天がある。弁財天はもともとはヒンドゥー教の水の神ラスヴァティーであることから、水の近くに祀られることが多い。井の頭弁財天も井の頭池の中に祀られている。安藤広重が名所江戸百景の中に描いている。

日野市百草にある京王百草園は、四季折々の草花の名所である。

1716 年頃（享保年間）、小田原城主大久保候の室であった寿昌院慈岳元長尼が徳川家康の長男・信康追悼のため当地に松連寺を再建したと伝えられる。

百草園
出所：京王百草園ＨＰ

日野市高幡の高幡山金剛寺は高幡不動として知られる。創建は 701 年（大宝年間）以前と伝えられるが、平安時代初期に慈覚大師円仁が、清和天皇の勅願によって当地を東関鎮護の霊場と定めて山中に不動堂を建立し、不動明王をご安置したことに始まる。

不動三尊像は総重量 1100kg もあり、古来より日本随一といわれる重要文化財である。

大日堂と奥殿には、土方歳三をはじめとする多くの新撰組隊士の位牌や資料が展示されている。

丈六不動尊
出所:高幡不動 HP

多摩川流域のなかでも、日本の古い歴史や文化に触れることができるエリアと言える。

④上流の豊かな自然と水の地域

多摩川上流には自然の豊かな地域が広がる。特に、高尾山から陣馬山、浅間嶺、御岳山、棒ノ折山、上日向と関東ふれあいの道が整備されている。「関東ふれあいの道」とは環境省の長距離自然歩道構想に基づき関東地方 1 都 6 県が整備している総延長 1,799km の自然歩道である。

関東ふれあいの道　出典:ｳｨｷﾍﾟﾃﾞｨｱ奥高尾縦走路（東海大学八王子病院より望む）

高尾山はミシュランの三ツ星に評価されたことで世界的に知られるようになった。高尾山といえば真言宗智山派の大本山である「高尾山薬王院有喜寺」が有名であるが、山としての高尾山は、明治の森高尾国定公園に指定されている。暖温帯系の照葉樹林帯（カシなどの常緑広葉樹）と冷温帯系の落葉広葉樹林（ブナ・イヌブナ・ナラ・ホオノキなど）・中間温帯林（モミ・ツガなどの針葉樹林）の境界に位置するため植生が豊かであり、しかも都市部に近い割には比較的よく保たれている

相模原市と八王子市との境界に陣馬山がある。関東の富士見百景に選定された標高 833m の山である。山頂には京王電鉄が観光のために作った白馬像がある。ハイキングスポットとしても人気が高く、秋の紅葉シーズンは、赤や黄に染まる紅葉が秋の青空に映

えて、息を飲むような美しさである。

陣馬山頂の白馬像
出所：東京都環境局 HP

大岳鍾乳洞
出所：あきる野市 HP

陣馬山の北には大岳キャンプ場と大岳鍾乳洞がある。多摩川の支流である秋川の上流で、マス・ヤマメの釣り場がある。

青梅市には武蔵御嶽神社がある。当社は紀元前91年（崇神天皇の7年）の創建とされ、736年（天平8年）に行基が蔵王権現を勧請したと伝えられる。

狼を祀った「大口真神社（おおくちまがみしゃ）」があることから、ペットのお払いなども行っており、飼い犬を連れた参拝客が多く見られる。

武蔵御嶽神社（筆者撮影）

青梅市には、吉野梅郷があったが、ウィルス感染のため全て伐採を余儀なくされた。

多摩川の上流の青梅市から奥多摩町にかけての地域は奥多摩湖周辺とその下流域に広がり、両市町合わせて約247㎢と東京都の11%を占め、御嶽神社や吉野梅郷の他にも、奥多摩渓谷、鳩ノ巣渓谷、日原鍾乳洞、百尋の滝、キャンプ場（東京都立奥多摩湖畔公園 山のふるさと村）など、観光スポットが多い。

都心からは少し離れるが、豊かな自然が残り、ハイキングや川遊びなど自然を楽しむ一方で、宿坊宿泊体験や酒蔵巡りなど、歴史・文化に触れ合うことができるエリアである。